



アフリカ

No.103

NOW



Naigeria Union の関東支部がナイジェリアの「子どもの日」を祝って 'CHILDREN'S Day Celebration' を開催

2015年5月31日 埼玉県草加市文化会館 撮影：茂住衛

CONTENTS



目次

トピック：2016年 ケニアで TICAD VI の開催が決定

Topic: TICAD VI Kenya 2016 has been fixed

市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can) の取り組み 何が変わるのか、どう変えていくのか 2-4

What will change TICAD and How? - Afri-Can's challenges

市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can) がめざすもの 5

1990 年代以降の開発・安全保障言説における人間像をめぐって 榎本珠良 6-10

On the view of the self in the post-Cold War discourse on development and security

榎本珠良さん執筆の論文から 11

モザンビークの発展を下支えする「銃を鋤に」プロジェクト 竹内よし子 12-13

'Transforming Guns into Hoes' - Supporting the development in Mozambique

追悼：モザンビーク全国農民連合 (UNAC) 代表 アウグスト・マフィゴさん 渡辺直子 14

ブルンジの苦悩ー 民主主義の果実を味わうその日まで ドゥサベ友香 15-17

The distress of Burundi - Until the day for enjoying fruits of the democracy

アフリカの現場から：ナイジェリア・アナンブラ州オニチャ市の HIV 予防・治療・ケアと地方格差のジレンマ

On the spot in Africa: Nigeria

川田薫 18-19

AJF 事務局から読者の皆さんへ～ひとつの結び目として／活動日誌

裏表紙

2016年 ケニアで TICAD VI の開催が決定

TICAD VI Kenya 2016 has been fixed

市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can) の取り組み 何が変わるのか、どう変えていくのか What will change TICAD and How? - Afri-Can's challenges

『アフリカ NOW』編集部

Editor of Africa NOW

9月27日、朝日新聞デジタル版は「米ニューヨークを訪問中の安倍晋三首相は26日夜（日本時間27日朝）、アフリカ諸国の首脳らと会談し、これまで日本で開いてきたアフリカ開発会議（TICAD）の第6回会合を来年アフリカのケニアで開き、エボラ出血熱対策やアフリカ向けのインフラ投資などで貢献していく考えを示した」と報じた⁽¹⁾。

TICAD は、1993年10月に東京で第1回本会合が開催され、1998年（第2回）と2003年（第3回）は東京で、2008年（第4回）と2013年（第5回）は横浜で開催されてきた。6回目になる TICAD VI は、2016年にケニアで開かれる。アフリカで TICAD が開かれることで何が変わるのか、TICAD をどのように変えていくのか。今年2月に市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can) が「よこはま国際フォーラム」において開催したシンポジウム「次回 TICAD VI はアフリカで!? ～日本とアフリカの新たな船出～」でのパネラーの発言を参考にしながら考えてみたい。

TICAD のアフリカ開催に至るまで

このシンポジウムで、TICAD 事務局を務める外務省アフリカ第2課課長の中川周さんは、アフリカでの TICAD VI 開催が決まった経緯について報告した。

2013年6月に横浜で開催された TICAD V の準備段階で、アフリカの国々からアフリカで TICAD を開催したいという要望が出されていた。

TICAD V で採択された「横浜宣言2013」には「次

の TICAD については、日本とアフリカで持ち回って開催をするというローテーション原則が適用可能である」という文言が入った。

横浜での TICAD V から1年後の2014年5月、カメルーンで開催された TICAD 関係会議で、アフリカ側から TICAD を3年に一度開催したいという提案がなされた。

同年6月の AU の総会で、TICAD の3年ごとの開催、TICAD V から3年後の2016年にアフリカで TICAD VI を開催するために日本を含む関係者とアフリカ側が協議をすることが決定された。

日本は、このようなアフリカ側の強い意向を受け、具体的な要望に応えることで日本とアフリカの関係の一層の緊密化が可能なり、また、アフリカに関わる課題により適切に対応することが可能になると考えた。同年9月にニューヨークで開催された国連総会に合わせて日本が主催した「日本・アフリカ地域経済共同体会議」の際に安倍首相が、次回の TICAD はアフリカで開催すべきというアフリカ側の要望に応えていくことを発表し、これからの TICAD は3年ごとに日本とアフリカで交互に開催していくことが決まった。

アフリカ諸国の TICAD への期待

在京アフリカ外交団（ADC: African Diplomatic Corp Japan）を代表して報告したモザンビーク大使ベルミロ・ジョゼ・マラテ（Belmiro Jose Malate）さんは、「これまでの TICAD の基本的な目標の一つである、ア



シンポジウム「次回 TICAD VIIはアフリカで!？」のパネラーと主催者
2015年2月7日 JICA 横浜 撮影：茂住 衛

フリカを国際的なアジェンダに乗せるという目的はすでに達成された」と指摘し、アフリカで TICAD を開催することへの期待を語った。

アフリカの開発のオーナーシップが高まり、アフリカの寄与そのものも高まる。

アフリカ諸国の市民が TICAD プロセスへの理解を深めることができ、また開発のパートナー並びに財界も含めて、アフリカの抱えるニーズのよりよい理解が生まれる。

アフリカでの TICAD 開催で 何が変わるのか

『アフリカ問題 — 開発と援助の世界史』（日本評論社）、『経済大陸アフリカ』（中公新書）など、アフリカの経済・開発・援助に関する書籍を執筆してきたアジア経済研究所上席研究員の平野克己さんは、「皆さんのお話をふまえて、私の頭の中にあることから話したい」と述べ、アフリカの開発が国際的な注目を集めていること強調した。

マラテ大使が発言されたとおり「これまで TICAD が果たしてきた役割は終わった」。

今やアフリカをめぐる中国、韓国、インド、米国などさまざまな国がサミットをやっており、お互いの競争が激しくなっている。

平野さんはさらに、2013年の TICAD V から共催

シンポジウム「市民が望むアフリカと TICAD の明日」

2013年2月9日 JICA 横浜 撮影：茂住 衛



者に加わった AU の組織強化についても発言。また、TICAD V に向けて日本経済団体連合会や経済同友会が提言をしたことなどから注目された日本企業のアフリカ進出についての考えも述べた。

アフリカで TICAD を開催することは、アフリカの意思を示すことによって成り立っている AU に、事務局としてもっと組織を強化していただきたいと要望することにもなる。

TICAD は、開催が3年ごとになることによってルーティン化していく。これまでのように5年に一度のお祭りに合わせて何かを作るのではなく、AU 内にも常設の組織を作って運営していなければならない。

日本企業のアフリカ進出は、アフリカ市場ときちんと対峙してビジネスをしようとする企業がこれから安定して事業を行っていくことを見届ける段階に入った。

AU への働きかけが重要

このシンポジウムでのパネラーの発言をまとめると、AU が TICAD 共催者に加わったことで、TICAD のあり方が大きく変わりつつあることがわかる。2008年に横浜で開催された TICAD IV までは、日本と UNDP や世銀始めとする国連機関が共催者であり、アフリカ諸国の政府は招かれて参加するゲストであった。AU が共催者に加わった2013年の TICAD V で採択された「横浜宣言 2013」に、ローテーション原則

が適用可能であることが明記されたことで、TICAD VIのアフリカ開催への道がひらかれ、さらには、TICADの開催間隔もが5年ごとから3年ごとへと短縮された。

市民社会の側も、日本政府および国連各機関だけでなく、AUへの働きかけを強化していかななくてはならない。アフリカにおける市民社会の取り組みがますます重要になってきている。

市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can) の発足

このシンポジウムを企画・主催した市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can) は、2013年に開催されたTICAD Vに向けて当時のTICAD V NGO コンタクトグループが取り組んだ外務省との対話やアフリカ市民社会と連携した提言活動などを継承し、TICAD 共催者への働きかけを通して市民社会の声をTICADに反映させることを目的として、2014年3月に発足した。

Afri-Can は、「触媒であること」「多様性を生かした連携をすること」「アフリカから学び貢献すること」を重視し、多様な人々が参加し、弱い立場に置かれた人々を含むアフリカの人々の多様な視点から、本来扱われるべき課題が議論され、アフリカの人々が、本来持つ力を自ら発揮できるように後押しするTICADをめざすというビジョンを共有し、広く参加を呼びかけ、活動を進めている⁽²⁾。

TICAD VまでのTICADに向けた市民社会ネットワークは、いずれもTICADに向けた準備会合が始まる時期に共催者へ働きかけることを目的として活動を開始し、TICAD 本会合が終わると活動報告を作成・公開し、解散してきた。TICAD V 本会合が終了して4ヵ月後の2013年10月に、TICAD V NGO コンタクトグループの取り組みと活動成果を振り返り、5年後のTICAD VI（当時はTICAD VIが2018年に日本で開催されることを想定していた）に向けたNGO ネットワークの取り組みの達成目標をイメージする会合が開かれ、新しいNGO ネットワークづくりが始まった。その後、新たなNGO ネットワークの発足を前提として準備会合が重ねられ、「市民ネットワーク for TICAD」という名称およびミッション・ビジョン・基本戦略が確定し、規約も定められ、2014年3月の発足に至った。

それぞれに独自の活動を行っているNGO スタッフの負担を軽減し、またネットワークの活動を多くの人々に理解できるものにして、開かれた運営をしてい

くために、プロボノ活動に参加する企業が、会議の進行やビジョン・ミッション・基本戦略づくりを支援してきた。具体的には、準備会合ごとのアジェンダ、月例会合の達成目標、前回までの会合の成果確認といった会議進行のプログラム化とタイムキープ、また、ミッション・ビジョン・基本戦略を作成するとはどういうことか、それぞれに何をもちこむべきか、などのワークショップのファシリテーションを担当する企業の担当者（複数）が、このネットワークの全ての会合に出席し、必要とされる業務を担っている。

アフリカの市民社会とつながる Afri-Can の活動

昨年3月の発足以降Afri-Can は、NGO やTICAD 事務局、国連機関、在京アフリカ外交団への働きかけを進めている。TICAD およびAfri-Can への関心を高めるために、ロゴや愛称の公募・選考も行った。

昨年5月にカメルーンで開かれたTICAD 閣僚級会議には、アフリカの市民社会組織とともに開催された市民社会戦略会議をふまえて参加。今年2月にはウガンダでアフリカ市民社会組織と環境保全と開発などのテーマでの討議を深めるための戦略会議を開催、7月には来年TICAD VIが開催されるケニアに世話人2人を派遣して、ケニアの市民社会組織への訪問や働きかけを行うなど、アフリカの市民社会とのつながりをさらに強化する取り組みを続けている。同時に、在京アフリカ大使館と協力してセミナー「アフリカの魅力を知る」を企画、8月8日に第1回「マダガスカル — 奇跡の島の魅力と人々の暮らし」を開催するなど、アフリカ理解を広げる取り組みも進めている。

これからのTICADは、AUが共催者としてより主体的に運営し、アフリカと日本で交互に開催されることによって、アフリカ諸国の声がこれまで以上に反映されるようになるだろう。Afri-Canを軸にアフリカ市民社会とともにTICADに参加し、TICADそしてアフリカ開発の方向性をより人々の声に応じたものにしていくことが求められる。

(1) <http://www.asahi.com/articles/ASH9W5413H9WULFA001.html>

(2) Afri-Canのウェブサイトを参照。
<http://afri-can-ticad.org/>